

次期大会開催地より

第54回北海道日高大会への歓迎あいさつ

大野 正夫（大会長／日高地域活性化協議会会長）

令和5年7月14日(金)から16日(日)、北海道日高町において「第54回全国ホタル研究会北海道日高大会」が開催されることになりました。

日高町は、北海道の背骨「日高山脈」の西側に位置する飛び地の町で、来年度指定予定の日高山脈襟裳地域の新たな国立公園の日高側西端に位置します。日本一の清流「沙流川」源流部を有する「日高地区」と、河口部のししゃも漁発祥の地であり、また軽種馬産業の盛んな「門別地区」とに分かれています。

日高山脈は、北米プレートとユーラシアプレートが衝突して約1300万年前から形成されはじめ、マントルが地表に出ている非常に特異な地質であり、日高町内では、かんらん岩や日高ヒスイ、純度の高い自然銅などが産出し、それらは日高町立「日高山脈博物館」に展示されています。特異な地質や北海道唯一の山岳氷河地形、固有動植物の多さなどを理由として国内35番目の国立公園となる見込みです。

門別地区の「オコタン川」では、住民らがホタル保護活動に取組、ホタル保護活動から郷土芸能の「蛍太鼓」が生まれ、青少年がその伝承に取り組んでいます。

今大会も、歓迎式・歓迎アトラクション・現地見学会は「門別地区」で開催し、アトラクションでは「蛍太鼓」の演奏を聴いていただき、オコタン川で実際にホタル保護活動に取り組んでおられる方々に案内をしていただくことになっています。

講演・研究協議・宿泊・交流会・地域観光は「日高地区」で開催します。山間部の田んぼでは、ヘイケボタルが飛んでいます。今回、主会場となる国立日高青少年自然の家は、沙流川河畔にあります。登山、ラフティング、キャンプ、釣り、自然観察活動が盛んな地区です。

国内で一番新しい国立公園の玄関口となる日高町へ、多くの方がご来訪くださいますよう心からお待ちしています。